



ジェンダー
×スキンケア

高齢者
×オレオレ詐欺



海外ボランティア
×大学生



「人の和」をつなげよう

町内会×食×防災



地域×高齢者
×コミュニティ



大学生×子どもたち
のコミュニティ



かながわユースフォーラム2023 報告書

主催 かながわユースフォーラム実行委員2023
(神奈川県社会教育課程 学生有志)

かながわユースフォーラム実行委員長
神奈川大学／社会教育課程・人間科学部
地域デザイン演習Ⅳ担当
教授 齊藤ゆか

「コミュニティ・ソーシャルコーディネーターを志す：ユースが失敗できる環境を！」



大学生の「コミュニティ・ソーシャルコーディネーター」の力を高めたい！

大きな志をもって、神奈川大学社会教育課程では「社会教育主事（任用資格）」及び「社会教育士」の資格取得を目指し13科目26単位を開講。2023年現在93名の登録者があり、通称「社教」という。授業の一つに「かながわユースフォーラム」を企画・運営するプロジェクトを行う、「地域デザイン演習Ⅳ」（選択科目）がある。「社教」に属する学生は、士気が高い。

「かながわユースフォーラム」は、様々な地域・社会課題に対峙した学生参画型交流事業。

ユース（学生）の「参画」には幾つかの段階がある。「社教」の7か月間にわたる実践は、4頁を参照されたい。先輩「社教」は後輩を後方支援。一方、重要な役割を担うのは「大人アドバイザー」の存在。行政をはじめ、町内会や地域ケアプラザの大人は「学生参画」の意義を理解し、「失敗できる環境」と「あたたかい眼差し」が不可欠となる。

学生は「風」であり、地域（大人）は「土」の存在。「風」の学生は毎年流動する。いわば初参画となるから大変！「土」の大人は地域資源を「引き出す」役割を持つ。大学と地域のつなぎ役割として、大学教員だけでなく、地域コーディネーターが縁の下の力持ちとなる。

こうした「学生参画」をコミュニティ全体で構造的に促す仕組みが必要である。新しく挑戦するプロジェクト運営には、①フォーラムまでテーマの挑戦、②フォーラム当日運営の挑戦が二つある。フォーラム当日（2023年7月1日）には、約300人を超える学生が参加。大人（行政や地域人ほか）はユースの成長した姿を見守る。

私たち大学教員は、コミュニティ全体を俯瞰しながら、次のステージに学生が移行できるよう、地域や仲間との関係づくりが構築できるよう、教育の立場からファシリテートする。

この間、毎年のように様々なドラマが生まれる。新たな出会いと挑戦もある。

ユースたちは、たった数か月で劇的な成長を遂げ、大人の私たちに驚かす。

卒業生の中にはフォーラム運営が自信になり、公務員になりたい！の夢も叶う。

2023年秋には「ユースプロジェクト」という小サークルが立ち上がり、自主的な地域ボランティア（小田原みかんPJ、クリスマスPJ、町内会PJ等）が継続中。こうした地域課題に対峙した学生参画をサステイナブルにするには、大学と地域との信頼関係が最も重要となる。

これからも地域の方々と共に、子どもや若者に、「失敗できる環境」を創り出したい。

大志を抱くユースに、サポート下さった多くの大人の方々に心から感謝申し上げます。

かながわユースフォーラム2023
学生代表 中田千雅（人間科学部3年）

今回で4回目のかながわユースフォーラムは、「人の和をつなぐ」をテーマに取り組みを行ってきました。地域の方々に加え、先生・先輩方の多くのご協力により無事に開催することができました。約300人と多くの方々にご参加頂き、年々発展を続けています。地域に寄与できる活動として、これからも広げていければと思います。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました！



神奈川大学／経済学部現代ビジネス学科
地域デザイン演習Ⅳ担当
教授 寺嶋正尚



学生の皆さん、OBやOGの方々、齊藤先生を初めとする諸先生方、そして本プロジェクトに関わって下さった地域の皆様方…。本当にお疲れさまでした。多くの方々の支えがあって、こうした一大プロジェクトが成功裡に終わったのだと、心から感謝申し上げます。また私自身、その一員として非常に大きな遣り甲斐と達成感を享受することが出来ました。教員冥利に尽きますね。

学生の皆さんが生き生きと取組み、そしてそれを地域の方々がとても優しく、そして時に厳しく、支えて下さる…。本当に素晴らしいプロジェクトであると感じました。また学生の皆さんも、日増しに逞しく、そしてしなやかに成長されていかれ、嬉しく思いました。

今回、経済学部・寺嶋ゼミとしても、分科会に参加させて頂きました。学部の枠を超えた学生同士の交流は、拝見していて、とても温かい気持ちになりました。

何よりこうした枠組みを作られ、ここまで軌道に載せられた先生方のご努力とご尽力に心から敬意を表します。本プロジェクトが来年以降も後輩の皆さんに着実に受け継がれ、そして本学を代表する取り組みの1つに育っていきますことを願っております。有難うございました。

かながわユースフォーラム2023
副代表

今回約300人の学生、地域の方々にお越しいただき、参加者の皆様が活発な話し合いをしている様子を拝見して、今年度テーマの「人の和」をつなげる一翼を担うことができたと感じました。今年度の開催にご協力いただいた方々、ありがとうございました！

(山田陽斗 法学部3年)



今年度は主体となる3年生の人数が少なく、初めは不安でした。しかしフォーラムを通して一人ひとりが役割を果たし、コミュニケーション力、発想力、発言力など多くの成長が出来ました。いつも支えていただいた先輩、先生方ありがとうございました！

(吉沼美優 人間科学部3年)

多様なフィールドで活動される団体の皆さまにご協力頂き、大変光栄です。当日まで時間が限られる中で、コンセプトやプログラム構成などの詳細を決定するまで紆余曲折ありましたが、ご協力・ご参加くださった皆さま、最後までお付き合い頂き本当にありがとうございました！

(山田優菜 人間科学部3年)



先輩サポーター

(左から)
浅野優翔 (人間科学部4年)
絞張美波 (人間科学部4年)
大久保遊 (法学部4年)



新たな活動に苦労しながらも挑戦する姿を見守ってきましたが、皆さんの努力が形となったユースフォーラムをサポートでき、嬉しく思います！これからも挑戦し続けてください！

地域コーディネーター

益田麻衣子・直井友樹



半年という短い間に、地域課題を見つけ出し、自分たちができることを考え、誰とどのように関わっていけば良いか話し合い、そして実際に地域に出てみる、というプロセスに加え、フォーラム当日の運営を行う中で、悩みながらも大きく成長した姿に感激しました。また、お力をお貸しくださった様々な方面の方々に、深く感謝申し上げます。

かながわユースフォーラム2023概要

『テーマ』 「人の和」をつなげよう

「和」
とは??

人々が一致団結
しているさま

学生・若者



企業・行政



地域社会



『目的』

学校・企業、行政・地域社会といったそれぞれの「和」をつなぎ、新たな出会いの場をつくり出す。
また、様々な機関が協働することでそれぞれの力を最大限に引き出し、さらなる地域活性化に繋げる。

「人の和」をつなげようを実践するためのSTEP

- STEP 1 1～4月：地域課題を出し合う
- STEP 2 4月：地域課題の共有、班分け
- STEP 3 5月：若者が地域のためにできることを洗い出し企画書に起こす、地域に足を運ぶ
- STEP 4 6月：イベントの実施
- STEP 5 7月：かながわユースフォーラムにて分科会ごとに実施内容の報告、
次年度に向けて反省点を共有
- STEP 6 7月～：継続して地域と関わっていく

学生参画メンバー

代表：中田千雅(人間科学部3年)
副代表：山田陽斗(法学部3年)
山田優菜(人間科学部3年)
吉沼美優(人間科学部3年)
3年生：15名
4年生(サポーター)：3名



かながわユースフォーラム2023

- 📅 開催日程 2023年7月1日（土）13:00～16:00
- 📍 開催場所 神奈川大学横浜キャンパス3号館3階
- 👥 構成 社会教育課程・地域デザイン演習Ⅳ履修者の学生による2つの分科会および4つのゲスト分科会による実践報告と、8つの団体によるパネル出展

📅 当日プログラム

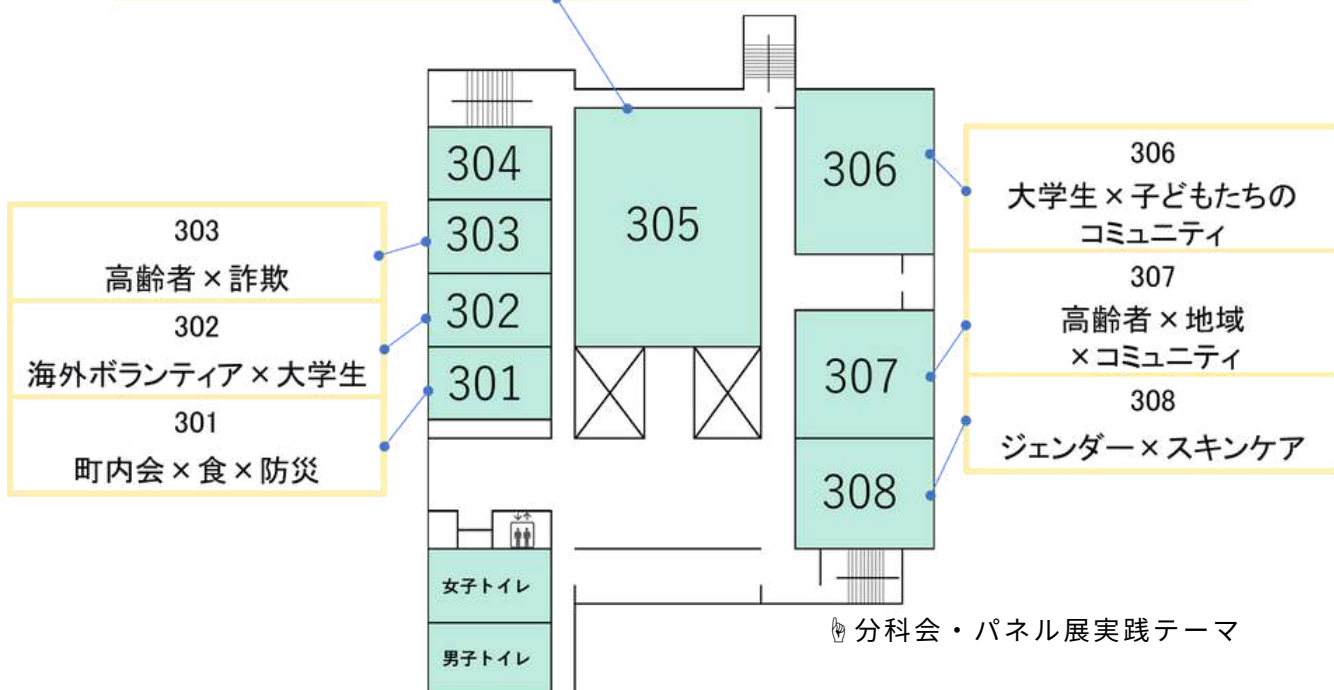
時刻	内容	備考
13:00	開 会 式	開会・フォーラム趣旨説明・学年代表挨拶
		アイスブレイク
		全体・分科会の流れ説明
13:30	分 科 会	分科会・パネル見学①
		分科会・パネル見学②
		分科会・パネル見学③
15:40	閉 会 式	分科会振り返り
		アンケート記入
		学年代表挨拶
		全体写真撮影・閉会

学生約280人、ゲスト約40人が来てくださりました！



305 パネル展

- 高校生が企業とコラボ
- 子ども、スポーツ、地域貢献
- 大学生が考えるボランティア
- 廃棄みかんの活用
- ボランティアに行ってみよう
- ボランティア相談コーナー
- 食と農の学び
- 自分らしくいられる子どもの遊び場



- 📍 参加者は、3クールのうち2クールは2種類の分科会に参加し、1クールはパネル見学した。
- 📍 参加者それぞれが参加した分科会の感想、印象に残ったパネル展の感想を記入した。

分科会 高齢者×地域×コミュニティ ようこそ、ご近所さんが集うコミュカフェへ！

●実施概要

「コミュニティカフェ」を地域と学生の交流拠点とするために、学生にコミュニティカフェを知ってもらい、実際の地域活動につなげていくことを目標とした。その手段として、学生がコミュニティカフェを訪れた時についての発表と、実際にコミュニティカフェに関わっている地域の方々を招いてのヒューマンライブラリーを実施した。

●企画・運営メンバー

山室遥、植野沙英、池島由樹、金須香佳、土屋華鈴

●アドバイザー

安信昌子

(六角橋地域ケアプラザ地域交流コーディネーター)
佐々木朝子(生活支援コーディネーター)



●連携団体

横浜市六角橋地域ケアプラザ、六角橋地域カフェ
(珈琲サロンローズ、サンSUNカフェ、カフェ3110/(さいとうぶん)、白幡上町丘の上カフェ)

●学生(企画・運営メンバー)代表者のコメント

第2クールに行ったヒューマンライブラリーでは、教室全体に「温かさ」が満ちており、私たちが伝えたかった「地域の温かさ」が広がっていたと感じた。実施側も参加者側もみんなが笑顔でとても心地のいい空間だったと思う。私たちのすぐ近くにある地域から、新しい「輪」を広げる機会を作る取り組みを実施できてよかった。

●参加した学生のコメント

今回とても印象に残っている言葉はコミュニティーカフェ(以下コミカフェ)班の方が言っていた「年齢の離れた友人が出来た」というものである。年齢の垣根を越えて友人ができる場というように説明をされた際に、「私は絶対にコミカフェに行きたい」と思った。なぜかという、大学で生活をしているだけでは得られない体験だと感じたからである。そのような場所を知ることができたのはとても大きかった。

分科会 町内会×食×防災

防災について考えYO！

●実施概要

地域の方と神大生が防災と食を通じて交流するきっかけづくりをテーマとした。ポウフラの成長抑制剤を散布する【モスキートバスターズ】と非常食のアルファ米に合うおかずを決める「アルファ米の相棒はなんだ！？コンテスト」を実施し、備蓄方法である「ローリングストック」の理解を図った。

●企画・運営メンバー

寺島愛莉、石丸花歩、赤堀莉子、池原歩美

●アドバイザー

萩谷秀人(斎藤分南部町内会会長) 町内会の有志の方々

●連携団体

横浜市神奈川区斎藤分南部町内会



●学生(企画・運営メンバー)代表者のコメント

企画を作り上げるまでに沢山の課題や不安がありましたが、町内会の方と話し合いを重ねていき、当日を迎えました。当日は暑い中、常に町内の方と学生の交流する声が聞こえ、無事にイベントを成功することが出来ました。私たちが目標としていた「地域の方と学生が交流する機会を作る」が達成できたとともに、斎藤分南部町内会の良さを伝えることが出来たと感じます。

●参加した学生のコメント

災害時に円滑なコミュニケーションや連携を取れるようにするためには、日頃から信頼関係を作っておくことが大切だと言っていました。それを聞いて自分も災害時のパニックになった時や不安になった時に知っている人や信頼出来る人がいたら、それだけで災害時の対策になると感じました。なので、私はアパートに住んでいるので近所の人とは積極的にコミュニケーションをとっていいと思いました。

分科会 高齢者×詐欺

オレオレ詐欺をSTOPせよ！

●実施概要

オレオレ詐欺の実態をふまえ、私たち若者ができる対策について考えてもらった。また、詐欺にあまり縁がない若者が詐欺の実態について学べる機会にした。

●企画・運営メンバー

神奈川大学経済学部 寺嶋正尚ゼミ
産業能率大学経営学部 武内千草ゼミから3名

●アドバイザー

寺嶋正尚（神奈川大学 経済学部教授）
武内千草（産業能率大学 経営学部教授）

●連携団体

産業能率大学経営学部 武内千草ゼミ
神奈川県戸塚警察署



●学生（企画・運営メンバー）代表者のコメント

初めての合同ゼミで、取り組み方が分からず不安でしたが、戸塚警察署の方や武内ゼミの方たちの協力のおかげでスムーズに準備を進めることができました。実際に分科会を行ってみると、私たちが思っていたよりもディスカッションの時間に和気あいあいと意見を出し合っていて安心しました。この分科会で学生の皆さんから頂いた意見を受けて、私たちがより地域になじんだオレオレ詐欺の対策が必要だと感じました。

●参加した学生のコメント

対策について考えてみると、対策案は多く出るがその出た案もありきたりで既にあるような対策しか思いつけなかったのが、難しいと感じました。今現在その案が世の中にあってもまだオレオレ詐欺が無くなるということは新たに案を模索しなくてはならないので、オレオレ詐欺の問題について他人ごとではなく自分自身にも起こるかもしれないので、家族とも話し合ったりするべきだと思うことができました。

分科会 ジェンダー×スキンケア

スキンケアは女子だけなの？

●実施概要

夏本番を迎えるにあたって、日焼け止めや日傘の使用率など、男女のUVカット対策や意識の違いについて、ディスカッションを通じて多様性やジェンダーについて考えてもらう機会とした。ディスカッションでは4人程度でグループを作ってもらい、意見交換を行う交流の場とした。

●企画・運営メンバー

神奈川大学人間科学部 荻野佳代子ゼミ
（宮澤亜佑美、齋藤雫、中山楓香、光武和香、越智悠衣花、
加能良哲、菅野直哉、熊谷海里、陳星宇、谷川明穂）

●アドバイザー

荻野佳代子（神奈川大学 人間科学部教授）

●学生（企画・運営メンバー）代表者のコメント

限られた準備時間の中で、メンバーそれぞれがジェンダーについて考え、学ぶ良い機会となりました。発表では様々な方の手助けを頂いたおかげでスムーズに進めることが出来ました。発表の中で出た意見は、私達が予想していたものより多様な意見が挙がり、充実した交流となりました。お互いを尊重し、認め合うことへの大切さを今回のユースフォーラムで共有できたことをうれしく思います。

●参加した学生のコメント

男性が日傘を使っているのが普通ではない、という意見が出てきて、性別によって変わる普通ってなんだろーと感じました。身近にある当然を、違う視点で考えてみると、案外当然と思っていることが当然では無いという事実を感じ、もう少し普段から多様な価値観があるということ意識してみようと思いました。



分科会 大学生×子どもたちのコミュニティ

JIN-KANA学習塾で、大学生と楽しく学ぼう

●実施概要

学校ボランティアの中で様々な理由で学習に困難を抱える中学生を対象とした大学生と子どもたちのコミュニティのJIN-KANA学習塾について概要やコンセプト、課題を取り上げ学習支援は何を生み出すのか考える機会としました。

●企画・運営メンバー

福島優香（経済3年）、水落悠翔（経済2年）、
海原美優（理2年）、小見山愛優乃（経済2年）

●アドバイザー

鈴木英夫（神奈川大学 法学部特任教授／教職課程）
佐藤剛（神奈川大学 教職課程・学習アドバイザー）



●学生（企画・運営メンバー）代表者のコメント

私自身、JIN-KANA学習塾に入ったばかりでしたが、中学生と楽しく話しながら学習支援を行うことで一般的な学習塾とはまた違った貴重な経験ができています。そのような寄り添い型のJIN-KANA学習塾をコースフォーラムで知ってもらい、学習支援について様々な方と考える機会を設けてくださりありがとうございました。今後塾生である中学生が増える見込みなので、JIN-KANA学習塾では学生ボランティアを募集しています。教職課程を取っていなくても興味のある方ならだれでも大歓迎です。

●参加した学生のコメント

塾といえば教師と生徒といった一線を引いた関係性であるが、JIN-KANAでは一人ひとりに寄り添い、学習する場だけに留まらず人として成長できる場だと感じ私自身が小学生の時にそういった場所があったらよかったのと思った。

分科会 海外ボランティア×大学生

まだ見ぬ世界へ一緒に飛び出そう

●実施概要

大学生の一步踏み出すきっかけ作りとしてワークキャンプというボランティア活動を具体例にあげ、グループワークを通して海外ボランティアに対するイメージなどを話し合い、実際に海外ボランティアに参加した大学生の体験談やボランティア参加者が作成した動画を鑑賞してもらった。

●企画・運営メンバー

大後双葉（人科4年）、村松勇祐（神大社教 卒業生）
佐々木勇蔵（社会人）、山根早也香（横国大4年）
金井麻菜（立教3年）、中村文香（立教3年）

●アドバイザー

磯田浩司（神奈川大学 非常勤講師）

●連携団体

NPO法人good!（特定非営利活動法人グッド）

●学生（企画・運営メンバー）代表者のコメント

参加してくれた学生だけでなく私たちにとっても海外ボランティアについて考えるいい機会になりました。ボランティアに行く理由は人それぞれで大きな理由もあれば小さな理由もあります。大学生にとって海外ボランティアというものが身近で挑戦しやすいものであることや勇気を出すことでいろんな世界、人、環境に出会えることを伝えることができ、大学生みんなの一步踏み出すきっかけになっていれば嬉しいです。

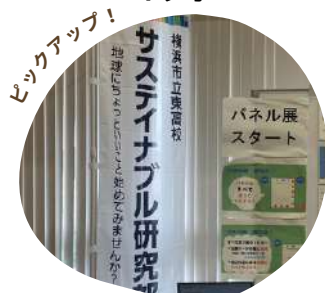
●参加した学生のコメント

今日発表している方たちを見て、多くの人と関わり、自ら社会的に動くことは、苦手を克服するチャンスに繋がり、ボランティアするだけでなく、自分の世界を広げることができると感じ、前よりもボランティアに対して楽しそうという気持ちが芽生え、前向きな気持ちになりました。



パネル展

高校生が企業と コラボ



横浜市立東高校
サステイナブル部
FANCLとの
共同プロジェクトを
中心に動画とパネルを用意
して頂きました！

ボランティアに 行ってみよう



神奈川県社会福祉協議会
からご紹介頂いた団体の
活動内容やボランティア
情報をまとめたパネルを
用意して頂きました！

廃棄みかんの活用



神大 社教学生有志
「おだわらみかん
プロジェクト」
生産者と消費者をつなぐ
プロジェクトとして、
廃棄みかんの再利用
アイデアについてパネル
を用意して頂きました！

自分らしくいられる 子どもの居場所



川崎市子ども夢パークに
ついて紹介させて頂き、
子どもの居場所について
考える機会になりました！

食と農の学び



神大 体験型研修
「わくわく食育体験」
(中川理絵准教授)
小田原市での体験学習の
様子や農業の現状について
パネルを用意して頂きました！

大学生が考える ボランティア



神大 「ボランティア学習論」
(市川享子非常勤講師)
「SDGsに関連する
ボランティアの考案」
について、4グループから
パネルを用意して頂きました！

子ども、スポーツ、 地域貢献



神大 齊藤ゆか教授ゼミ
3つのテーマに分けて、
大学周辺地域の取り組みを
新たに知る機会を
作って頂きました！

ボランティア 相談コーナー



神奈川大学学生ボランティア
活動支援室
学生のボランティアに関する
悩みを聞くブースを
作って頂きました！

ピックアップ!

高校生が企業と コラボ

顧問の市川恵先生にお越し頂き、
直接学生に説明してくださりました。
お忙しいなか、ありがとうございました！

<学生の感想>

- 身近なことからSDGsを発想する
高校生の力を見習いたい！
- 学生と企業それぞれの視点
で環境問題に対する解決策
を考えるいい取り組み！



横浜市立東高校 サステイナブル部

神大社教学生有志 おだわらみかん プロジェクト

<代表者コメント>

感想シートを読んでもっと、
「みかん×うどん はとても斬新な考え方」
「廃棄みかんを再利用するのは
とても良い事だし面白そう」
といった声がありました。

今リーダーを務めているのは
4年生です。
次年度も行って欲しいので、
興味のある方はぜひ、
お声かけ下さい！

廃棄みかんの 活用





振り返り

分科会を中心に参加者の感想を全体で共有する振り返りを行いました！前年度に引き継ぎ、「振り返りの木」を用いて分科会の成果を可視化。私たちフォーラム実行委員が代弁する形で、「振り返りの木」から参加者の感想をピックアップして発表させて頂きました。

アンケート結果

n=237

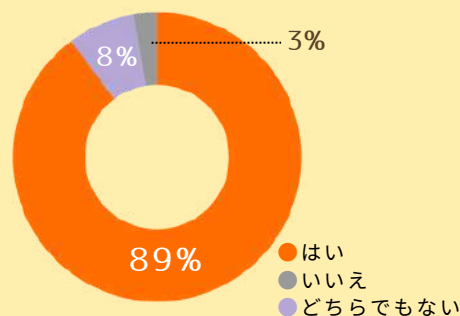
達成点

- 参加者同士の交流の場（参加者の「和」をつなげる場）として機能した。※グラフ1より
- 社会教育の入り口として、参加者に活動を知ってもらった機会となった。※グラフ2より
- ボランティア潜在層へのアプローチとなった。※グラフ3より

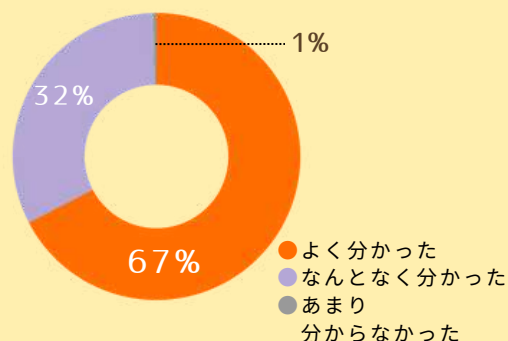
参加者の感想

- イベントの宣伝を大学全体で行うと参加者の数も増え、より楽しいものとなるのでは？
- 違う学年の参加者と話し、自分とは異なる考えを持っていると感じた。新しい発見が多く、今回参加しなかった人にも是非参加してみたい。
- これまでボランティアにはあまり参加したことはなかったが、今後取り組みうと思った。

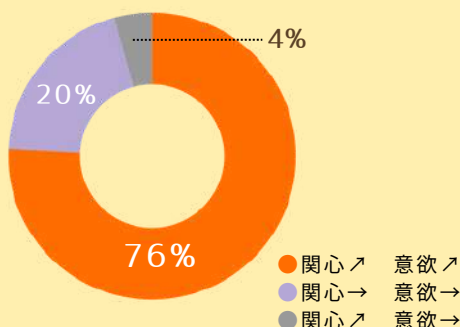
他参加者と交流できたか？（グラフ1）



地域活動や社会教育について知ることができたか？（グラフ2）



ボランティア・地域活動への関心/意欲の変化は？（グラフ3）



写真で振り返るユースフォーラム



CREDIT

【主催】

かながわユースフォーラム実行委員2023

○代表

中田千雅（人科3年）

○副代表

山田陽斗（法3年）/山田優菜（人科3年）/吉沼美優（人科3年）

○メンバー

赤堀莉子（経済3年）/池島由樹（人科3年）/池原歩美（法3年）
石丸花歩（人科3年）/植野沙英（人科3年）/金須香佳（人科3年）
土屋華鈴（法3年）/寺島愛莉（人科3年）/古門克樹（経済3年）
長嶋虎之介（人科3年）/山室遥（人科3年）

○サポーター

浅野優翔（人科4年）/大久保遊（法4年）/絞張美波（人科4年）
中島さえ（人科研究科1年）

○アドバイザー

〈神大〉

齊藤ゆか（人間科学部教授/社教）
寺嶋正尚（経済学部教授/社教）
荻野佳代子（人間科学部教授）
鈴木英夫（法学部特任教授/教職課程）JIN-KANA塾主宰
佐藤剛（教職課程・学習アドバイザー）JIN-KANA塾指導
中川理絵（化学生命学部准教授）
市川享子（東海大学准教授・神大非常勤講師/社教）
磯田浩司（神大非常勤講師/社教・NPO法人good!代表）
益田麻衣子・直井友樹（社教 地域コーディネーター）

○協力者

井上裕子（横浜市神奈川区区政推進課企画調整係長）
大山仁彦（横浜市立東高等学校校長）
市川恵（同校サスティナブル部顧問）
坪井健（東京ヒューマンライブラリー協会代表・
駒澤大学名誉教授）
西野博之（認定NPO法人フリースペースたまりば理事長・
神大非常勤講師/社教）
萩谷秀人（斎藤分南部町内会会長）ほか町内会有志の方多数
安信昌子（六角橋地域ケアプラザ地域交流コーディネーター他）
佐々木朝子（生活支援コーディネーター）
原田亮（横浜市神奈川区社会福祉協議会事務局次長）
後藤徳子（横浜市神奈川区社会福祉協議会）

【協力】

〈神大〉

社会教育課程 学生有志
神奈川大学学生ボランティア支援室
KU GOOD COFFEE CLUB 神奈川大学珈琲同好会

〈行政・学校〉

横浜市/神奈川区/小田原市/
戸塚警察署/神奈川県立青少年センター
横浜市立東高等学校（サスティナブル研究部）
産業能率大学（武内千草ゼミ）/近隣中学校

〈民間〉

東京ヒューマンライブラリー協会
神奈川ロータリークラブ/第2590地区ローターアクト
神奈川区社会福祉協議会（ボランティアセンター）
神奈川区六角橋地域ケアプラザ
神奈川区六角橋商店連合会
神奈川区斎藤分南部町内会
神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ
友ゆうスペース/まる倶楽部
珈琲サロンローズ/カフェ3110/（さいとうぶん）
サンSUNカフェ/白幡上町「丘の上カフェ」
地域情報紙『タウンニュース』（神奈川区）
認定NPO法人フリースペースたまりば
NPO法人 good!
NPO法人アクションポート横浜

（敬称略、順不同）

（略称：神奈川大学＝神大、社会教育課程＝社教）

報告書編集委員会

改めて課題点を見直すことが出来たため、次年度の開催に活かしたいです。（土屋華鈴：法3年）

ユースフォーラムを通して新たな出会いや発見があり、貴重な経験となりました。（赤堀莉子：経済3年）

対面開催2年目だからこそその達成点と課題点を見直す機会になりました。（山田優菜：人科3年）

